

作物名：ばら

病害虫名：疫病（病原：*Phytophthora nagaii* , *Phytophthora* sp.）



成熟枝の枝枯れ症状



葉の黄化



地際部の褐変

1 被害の特徴と診断のポイント

- ・地際部や根が侵される。
- ・はじめ地際の枝が暗緑色水浸状を呈し、やがて暗褐色となる。未熟枝では新梢から萎れて枝枯れ症状となり、成熟枝では下葉から黄変落葉し、地際部から上方へ褐変して枯死する。最終的に被害株の地際部や根は水浸状に腐敗し、地上部は萎凋枯死する。

2 伝染源及び伝染方法

- ・本病菌は被害株の組織中で菌糸や卵胞子で越冬し、翌年の伝染源になる。
- ・二次伝染は、遊走子のうから放出される遊走子によって起こる。
- ・土壌伝染及び水媒伝染する。

3 発病・伝染好適条件

- ・本病菌は卵菌類に属し、無性器官として菌糸、遊走子のう、厚壁胞子を形成、有性器官として造卵器、造精器、卵胞子を形成する。
- ・本病の病原菌として、国内では2種報告されており、菌糸の生育温度は *P.nagaii* が5～33℃（最適温度 25～28℃）、*Phytophthora* sp.が 10～30℃（最適温度 25℃前後）である。
- ・本病の発生は *P.nagaii* による被害は県内では7～8月の高温期に発生がみられ、*Phytophthora* sp.による被害は県内では確認されていないが、2～3月の低温期にみられることが多いとされている。
- ・地床栽培での発生は、比較的排水不良な場所から始まり周囲に広がる。ロックウール栽培では、ベンチがやや沈んで滞水しやすい場所から始まり、次第に散発的に広がり全体に及ぶ。

4 防除対策

- ・培地等の資材は、消毒して使用する。
- ・無病苗を定植し、高温にならないよう温度管理に注意する。
- ・循環式養液栽培では、サンドフィルター装置（簡易砂ろ過装置）を排液タンクと給液タンクの間設置することで、発病ベッドから無病ベッドへの感染の拡大を抑制できる。

5 その他

宮城県内では、2000年に養液栽培施設で初めて発生が確認されている。

6 出典

- （1）参考文献：日本植物病害大辞典（全農教）、日本植物病名データベース（農業生産資源バンク）、長井ら：日植病報 41(3):254;1975、植松ら：植物防疫特別創刊号 17:118-112;2015、平成12年度特殊報第1号（宮城県）
- （2）写真：宮城県病害虫防除所撮影



疫病菌(*P.nagaii*)の遊走子のう